

TS（トータル・サティスファクション）を目指して⑧

「どんな試合も必ず0-0から始まる。」という意識

校長室担当より

現在、サッカーワールドカップ予選が開催されています。先日オマーンに敗れてしまった日本代表戦を観ていて、ある話を思い出しました。イビチャ・オシム氏を御存じですか？サッカーを経験してこられた方はもちろん御存知だと思いますが、日本代表の歴代監督の中でも最も尊敬された方の一人です。あるアジアのチームとのアウェイゲーム前日の記者会見での日本代表監督としてのオシム氏とある記者とのやりとりです。

その試合の相手は FIFA ランキング 100 位台のチーム。格下との試合ということで、グループ全体の得失点差争いも重要な焦点となっている試合でした。

「明日は何得点が目標ですか」とある記者がこう質問されたそうです。もし皆さんが監督だったらどのようにお答えしますか？

オシム監督は激怒して、こう話されたそうです。

「何をバカなことを言っているんだ！ 国際試合に楽勝などない。相手も必死にやってくるし、どんな結果もありうるのがサッカーだ。」

「相手をリスペクトすることが負けない秘訣だ。」とも語ったオシム監督らしいエピソードです。

当時高校サッカー部の指導をしていて、中学生との交流試合の際等には、「今日の試合は何点取る？」と選手によく声をかけていた私は、とても反省しました。「素直さと謙虚さ」を選手育成のテーマとしていた私が、単純に選手を鼓舞し、モチベーションをあげるために使ったこの言葉は、選手の受け取り方によっては、相手チームや選手に対するリスペクトを欠く行為を促すこととなると気づかされました。またそれだけではなく、試合前からどこかにいい加減な気持ちが自分自身にあり、最善を尽くす姿勢に欠けていたということも大きな気づきとなりました。ざっ

くりいうと「謙虚さ」が足りない。

人間は、どのような場面でも相手に対して謙虚であるべきだと今までもお伝えしてきました。スポーツで例えるなら、「どんな試合であっても、必ず0—0で始まる。」ということをしちんと意識することが大切です。特に、役職や立場、会社で言えば正規非正規（本校で言えば本務者とそうでない方）等の任用形態での違い、専門性の違いや経験年数、年齢の差等の優位性がもし仮に自分にあったとしても、人間として対等の立場で、相手に対して謙虚に対応できるかどうかで人間としての器が試されます。いかにその人の役職や専門性が高くても、この「謙虚さ」は自然にその人が普段人と接する中の言動に出てくるもので、無意識でいるとこれを失い、周囲の人の心は自分が気づかないうちに離れていってしまいます。地元で自動車販売会社に勤めている、私が顧問をしていたサッカー部の卒業生が教えてくれました。「正社員で、学歴や知識があるだけでは、車は売れないんです。やっぱり人間的な魅力がないとダメなんです。」と。謙虚さは「人間としての魅力」の土台部分であり、私たちは児童生徒に人間のモデルとして、自分たちの後ろ姿で、その大切さを伝えられるようにしたいものです。そういう私自身ができていない部分が多く、日々反省の毎日ですが、いい学校をつくりましょう、一緒に。

ちなみに私の場合、自分の妻とは0—10から試合が始まります。でもこれもいいかなと思うことが結構あります。（令和3年9月21日）

本校教職員として目指す方向性（確認）

※4月1日にお願ひしたこと

- 1 トータル・サティスファクションの実現
- 2 学びに向かう力をもつモデルを率先垂範
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームの実現
- 5 「今さえ、ここさえ、自分さえよければいい」の3悪の撲滅